事業別１０年の歩み

広島大学マスターズの企画事業

例　会

広島大学マスターズは会員相互の親睦と交流を図ると共に見聞を広める企画として、研究機関や施設を訪ねる例会を実施することにした。2007年の初年度は意欲的に年4回実施したが、2008年度からは年1回とした。

2011年には渡部和彦氏が指導するウオーキングの会を例会とし、従来の例会と合わせて、年2回の計画で行うことにした。10年間に19回の例会を行ってきて、それぞれが有益であったが、その中で4つの例会を報告する。

第1回例会は独立行政法人酒類総合研究所の見学会

・日時：2007年1月17日（水）14：00 ～ 15：30
・場所：独立行政法人酒類総合研究所（東広島市サイエンスパーク内）
・参加者：11名
・プログラム：施設や仕込み作業の見学と解説、利き酒等

酒類先端技術の発信基地を見学し、酒類に対する認識を高めることができた。

第12回はウオーキングの会

・日時：2012年9月23日（日）9：00 ～ 12：00
・集合場所：広大産学・地域連携センター（サイエンスパーク内）
・コース：黒瀬川－吾妻子の滝とその周辺
・参加者：40名

健康づくりのために適度なウオーキングはとても楽しかった。

第15回は大久野島歴史探訪

・日時：2013年11月27日（日）10：30 ～ 14：30
・場所：竹原市大久野島
・コース：毒ガス資料館、慰霊碑、発電所跡など
・参加者：31名

毒ガス資料館での被害者と加害者の両方の立場からの説明や展示が衝撃的で、戦争の記憶を継承し、平和を考える意味でも貴重な体験となった。

第16回は豊潮丸体験航海

・日時：2014年10月20日（月）10：30 ～ 14：30

・場所：練習船豊潮丸（広大生物生産学部附属練習船）、呉湾
・コース：呉湾13マイルをクルーズ
・参加者：40名
最新鋭の研究や調査機器の紹介、海洋観測実習を通して瀬戸内海の漁業資源の現状を学んだ。

例会リスト

第１回例会　2007年1月17日（水）「独立行政法人 酒類総合研究所見学会」
第２回例会　2007年3月8日（木）「発掘中の大地面遺跡と安芸国分寺跡の見学」
第３回例会　2007年4月21、22日（土、日）「ミニボランテイアと山菜採り・野外料理の体験」
第４回例会　2007年9月21日（金）「広島空港及び周辺地域視察」
第５回例会　2007年12月11日（火）「酒蔵見学（賀茂泉酒造）と忘年会」
第６回例会　2008年10月18日（土）「豊潮丸見学と広島湾周遊」
第７回例会　2010年2月4日（木）「蓬莱庵・賀茂鶴酒造の見学と懇親会」
第８回例会　2010年7月27日（火）「広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台見学」
第９回例会　2011年2月9日（水）「サタケ・クリスタルラボラトリー見学と懇親会」
第10回例会　2011年8月31日　「長善寺と竹鶴酒造見学会」
第11回例会（第1回広大マスターズ・ウオーキング大会）2011年9月23日（金）「二神山」
第12回例会（第2回広大マスターズ・ウオーキング大会）2012年9月23日（日）「吾妻子の滝」
第13回例会　2012年10月28日（日）「豊潮丸体験航海」
第14回例会（第3回広大マスターズ・ウオーキング大会）2013年9月22日（日）「龍王山」
第15回例会　2013年11月17日（日）「大久野島歴史探訪」
第16回例会　2014年10月20日（月）「豊潮丸体験航海」
第17回例会（第4回広大マスターズ・ウオーキング大会）2014年11月15日（土）「鏡山公園」
第18回例会（第5回広大マスターズ・ウオーキング大会）2015年10月31日（土）「安芸国分寺公園」
第19回例会（第6回広大マスターズ・ウオーキング大会）2016年10月2日（土）「仙石庭園訪問」

（難波平人）

懇親会

広島大学マスターズの懇親会は、毎年2回、6月頃の総会終了後と10月の西条酒まつりの初日に開催され、会員相互の親睦を深めた。また、これらとは別に、2011年の例会「サタケへの見学会」の後の「早春懇親会」や2016年に「創立10周年記念祝賀会」を開催した。この懇親会は東広島市の学園都市のあり方について、あるいは自分の夢や信念について、楽しく仲間と語り合う時間として掛け替えのないものとなっている。2016年度のみを報告する。

第１回目懇親会は総会後に実施

・日時：6月4日（土）17：30 ～ 19：30
・場所：賀茂泉館4F　泉ホール（西条駅前）
・参加人数：30名
　マスターズ顧問の越智光夫広島大学長も出席され、盛大な懇親会となった。

第２回目の懇親会は西条酒祭りの初日に行った。
・日時：10月8日（土）17：30 ～ 19：30
・場所：ふく政（西条町岡町6-5）
・参加人数：11名
　広島大学の現状と将来を見据え、広島大学マスターズの役割の大きさを確認し、活発な意見が出た。

第３回目の懇親会は「創立10周年記念祝賀会」として行った。
・日時：11月26日（土）18：00 ～ 20：30
・場所：賀茂泉館４Ｆ泉ホール（西条駅前）
・参加人数：44名

（難波平人）

広島大学マスターズ主催講演会

広島大学マスターズが展開する事業の柱の一つ「地域社会への貢献」の一環として、一般市民を対象としたマスターズ独自企画の公開講演会が2014年度から始まった。第１回は難波平人会員による「世界の美術紀行」（2014年8月23日）、第２回は東広島市教育委員会生涯学習部次長・藤岡孝司氏に依頼して「東広島市の歴史（古代編）―安芸国分寺をめぐって」（2015年6月21日）、第３回は山本義雄会員による「アジアの遺伝資源探索：動物・民族・食文化」（2015年12月12日）、第４回は平田敏文会員による「香りへの招待」（2016年6月12日）であった。そのうち第１回は「広大マスターズ友の会」の設立総会に合わせ、同会との共催で行われ、同会会員とマスターズ会員との懇親昼食会も併せて開催された。第２・４回も同様に「広大マスターズ友の会」との共催で、その前後に両会会員の懇親会が開催されている。詳細は以下のサイトをご覧いただきたい。
http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/HM-kouenkai/hokoku-HMkikaku-ichiran-.html

（原野　昇）

海外研修旅行

現役時代は教育活動を除けば、残りは専門分野の研究活動にできるだけの精力を集中する。その結果、国内外の旅行も学会出席や調査のためのものがほとんどである。退職後も現役時代と変わらない生活の会員もいるが、専門分野以外のことに多少時間を割くことができるようになった会員も少なく

ない。そのような会員にとって色々な土地に出かけていき見聞を広める機会が提供されることはいいことではないか、として始まったのが研修旅行である。趣旨は「例会」と大差はない。旅行会社が企画する一般の観光旅行と少し違う、広島大学マスターズならではの旅行にしたいとの思いを込めて「研修」旅行と称することになった。

第１回は台湾を2015年7月12 ～ 15日（３泊４日）に訪問した。高雄（１泊）、台南、台北（２泊）の観光名所以外に、マスターズ独自の企画として、(1)烏山頭水庫（八田與一記念圓区）見学、(2)日本統治体験者の話を聞く会、(3)中国文化大学訪問と講演会、が組み込まれた。(3)は渡部和彦代表幹事昵懇の中国文化大学スポーツ科学学部長・江界山教授に同学部の施設を案内してもらうと同時に、同大学日本語学科の黄美恵准教授による「台湾の歴史と文化」と題する講演を聞いた。参加者は、広島大学マスターズ会員、会員の家族・友人、広大マスターズ友の会会員等、合計18名（プラス添乗員）であった。詳細は以下のサイトをご覧いただきたい。

http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/Kensyu-ryokou/27-kensyuhokoku.html

第２回は、2016年5月25 ～ 28日（３泊４日）に実施された中国東北部、大連（３泊）・旅順への旅であった。旅順、二〇三高地、東鶏冠山、水師営会見所、旧関東軍裁判所、旧満鉄本社、旧大連大和ホテルなど、主として日本近代史に関係の深い場所を中心に見学したほか、大連にある東北財経大学を訪問した。同大学では、広島大学法学研究科で学位を取得された劉曉梅・同大学教授に大学を案内してもらったほか、同教授自身による「中国の福祉事情―高齢者サービスを中心に」と題する講演を聞いた。さらに今回は、広島大学留学経験者の会・広島大学大連校友会との交歓夕食会も実施された。これには広島大学から北京研究センター長および国際センター教授も参加され、マスターズの研修旅行が広島大学の国際交流事業の一翼を担う形となった。旅行参加者は合計16名（プラス添乗員）であった。詳細は以下のサイトをご覧いただきたい。

http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/Kensyu-ryokou/28-kensyuhokoku.html

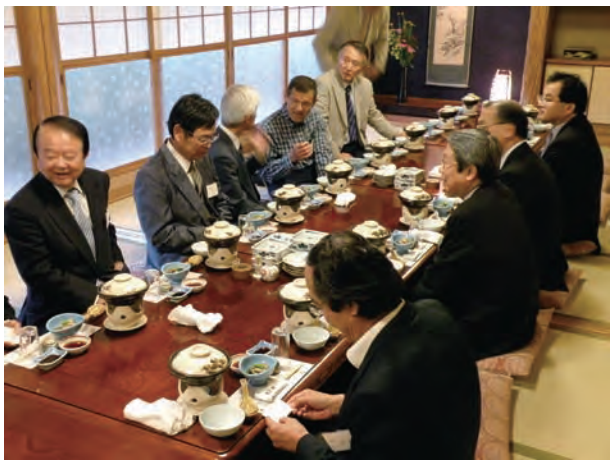
（原野　昇）

設立総会（2007.12）

設立総会（2007.12）

設立総会（2007.12）

第 11 回定例総会 (2016.6)



懇親会（2009.5）

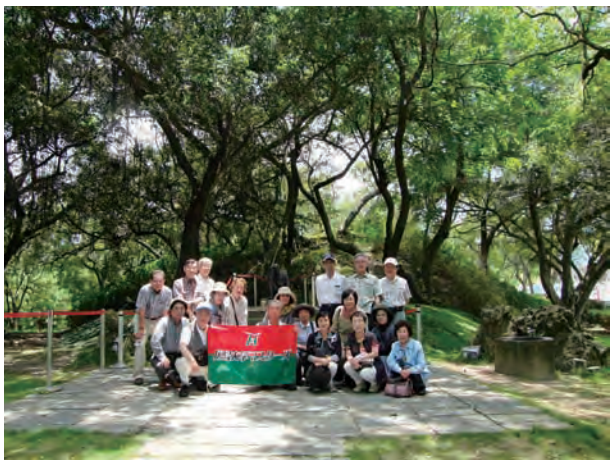
懇親会（2010.5）

例会「広島大学：東広島天文台見学」（2010.7）

例会「豊潮丸体験航海」（2012.10）

ウオーキング大会「西条酒蔵通り―安芸国分寺コース」
（2015.10）

HM 講演会「東広島市の歴史（古代編）」藤岡孝司
（2015.6）



海外研修「台湾」（2015.7）

海外研修「中国」（2016.5）

広島大学への教育支援

教養教育「平和科目」

広島大学における平和科目は、戦争、原爆、貧困、飢餓、人口増加、環境など極めて多様な観点から学生に「平和を考える場」を提供し、寛容と共生の心を養い、国際平和を考えることにつなげ、絶えず「平和」について考えることを通じて豊かな人間性を学生たちの間に培っていきたいという強い思いから出発した。これは被爆地「ヒロシマ」に開学し、「自由で平和な一つの大学」を建学の精神として掲げる広島大学の個性の一つであり、被爆地にある広島大学の使命であったからである（平成23年1月19日「平和レポート優秀賞表彰式での浅原利正前学長挨拶」及び『広島大学だより』第10号）。

広島大学における平和科目の立ち上げについては、平和科目に関わる約4年間の議論の場があった。平成19年度から2年間、平和に関する教育検討WGが立ち上げられ、平和教育についての熱い議論が交わされ、学生に平和科目を課すことの提言がまとめられた。その間、浅原利正広島大学前学長は「平和に関するモニュメント見学実習レポート」の提出を学生への宿題として課した。続く、平和希求委員会平和教育部会（平成21・22年度）、さらに教養教育本部平和科目WG（平成22～24年度）で平和科目の実施・評価が行われた。同時に上述の「モニュメント見学レポート」を評価する仕組みが求められ、平和科目の中に位置づけて評価することが決まった。これらの委員会・WGでの議論の中で、原爆の被害を世界で最初に受けた広島と平和の重要性について、より詳しく語れる広島大学名誉教授にも授業を担うことが求められ、正式に広島大学マスターズ（HM）および広島大学マスターズ広島（HM広島）がこれを受けることとなった。

このような背景のもと、平成23年度から新たに教養コア科目（選択必修）の一つとして「平和科目」（29科目で出発）が新設され、そこにHMおよびHM広島の会員の平和科目を担当することが求められた。第2次世界大戦を幼少期に体験して学問を志した研究者たちの志操を若い学生たちに伝えてほしいという趣旨からであった。最終的にHMが2科目（平和と人間AおよびB）、HM広島が2科目（平和と人間CおよびD）をそれぞれ開講する運びとなった。いずれも複数の名誉教授がオムニバス形式で授業を担当し、現在も継続されている。受講学生達からは、多くの教官から多彩な内容の授業を受けられるということで概ね良い評価を受けている。

HMが開講する平和科目の「授業の目標と概要」と「授業担当者」は下記のとおりである。

【平和と人間Aの授業の目標と概説*】：世界の人々が平和を求めながら直面している困難を学び、その克服のためのさまざまな努力を、特に環境、生物、エネルギー、資源、産業、バイオテクノロジー等の方面に焦点を当てて考察してゆく。

【平和と人間Bの授業の目標と概説*】:平和を求めながら直面している困難とそれを克服するためのさまざまな人類の努力の歴史を学びながら、平和のかたちとしてのテクノロジー、文学、美術、スポーツ等の未来を考えてゆく。

(*授業の目標と概説は、平成23年度をベースに、以後、授業担当者の入れ替えに応じて文言の部分的変更を加えている。)

【授業担当者（敬称略、無印ＨＭ会員、**HM広島会員)】

平成23年度前期　（まとめ役：金田晉）

平和と人間A（金田晉、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、山本義雄、鈴木寛一、中川平介、平田敏文、松田治男、佐野進策）

平成23年度後期　（まとめ役：金田晉）

平和と人間B（金田晉、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、池上晋、水田英実、原野昇、山代宏道、難波平人、渡部和彦、佐野進策）

平成24年度前期　（まとめ役：金田晉）

平和と人間A（金田晉、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、山本義雄、鈴木寛一、中川平介、平田敏文、松田治男、佐野進策）

平成24年度後期　（まとめ役：金田晉）

平和と人間B（金田晉、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、池上晋、水田英実、原野昇、古浦敏生、渡部和彦、難波平人、佐野進策）

平成25年度前期　（まとめ役：松田治男）

平和と人間A（松田治男、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、池上晋、鈴木寛一、山本義雄、平田敏文、佐野進策、金田晉）

平成25年度後期　（まとめ役：松田治男）

平和と人間B（松田治男、松田正典、植木研介**、友田卓爾、安藤忠男、池上晋、金田晉、原野昇、山代宏道、渡部和彦、難波平人）

平成26年度前期　（まとめ役：松田治男）

平和と人間A（松田治男、植木研介**、松田正典、三浦省五、安藤忠男、山本義雄、鈴木寛一、池上晋、平田敏文、岩田賢司、金田晉）

平成26年度後期　（まとめ役：松田治男）

平和と人間B（松田治男、植木研介**、松田正典、三浦省五、安藤忠男、池上晋、金田晉、原野昇、山代宏道、渡部和彦、難波平人、岩田賢司）

平成27年度前期　（まとめ役：三浦省五）

平和と人間A（三浦省五、植木研介**、松田正典、松田治男、安藤忠男、山本義雄、鈴木寛一、池上晋、平田敏文、岩田賢司、金田晉）

平成27年度後期　（まとめ役：三浦省五）

平和と人間B（三浦省五、井上研二**、松田正典、松田治男、安藤忠男、池上晋、金田晉、原野昇、山代宏道、渡部和彦、難波平人、岩田賢司）

なお、松田治男会員が退職前に「平和に関する教育検討WG」の委員として、また金田晉会員が退職後「平和希求委員会平和教育部会」と「平和科目WG」の委員として、それぞれ平和科目の新設に尽力したことを記しておく。

（松田治男）

日本語・日本文化短期特別研修

近年、アジア地域をはじめ、世界の諸大学で、日本語習得のための学部又は学科、コース等が設置され、多くの学生が日本語や日本文化を学ぶようになった。これに呼応するかたちで、広島大学では2010年度から、外国の学生たちのための短期研修プログラムとして、「日本語・日本文化特別研修」を実施している。従来から、同大学は多くの国費外国人留学生や私費外国人留学生を受け入れ、交換留学等の留学生も受け入れてきた。同研修は、海外の大学生に対して日本語教育及び日本事情教育を行うとともに、日本文化を体験させることにより、日本語能力向上及び日本文化理解に寄与することを目的としている。より積極的に広島大学の良さをPRしてゆこうとしている。

日本語・日本文化の学習を主軸に2週間の多彩なプログラムが組まれている。折り紙などの伝統的な細工事、広島やその近郊、たとえば厳島神社などへの野外学習も実施している。わがHMは、その中でもう一段高度な文化論、事情論の多様な講義を行ってきた。最初の年に提供した5つの授業は次のとおりである。

＜日本文化論＞として「日本の文化－小倉百人一首かるた－」（西川恭治）、＜日本事情＞として「暮らしの中の無線」（井上宣邦）、「日本の大学事情」（有本章）、「日本の環境問題」（安藤忠男）、「リーダーシップと職場」（黒川正流）と、正統派の科目を並べた。

2011度は夏期（中国クラス）と冬期（台湾クラス）の研修が実施された。夏期はHM広島が担当し、冬期のほうをわがHMが担当した。＜日本文化あるいは日本事情＞に関する講義として、学生の関心や心的負担度の軽減等を考慮しながら、「日本の環境問題」（安藤忠男）、「暮らしのなかの無線－通信と放送」（井上宣邦）、「日本のスポーツサイエンス」（渡部和彦）、「日本の絵画－絵巻物の世界－」（金田晉）の計４回の講義を実施した。

2012－3年度、夏期2クラス（中国クラス、台湾クラス）、冬期2クラス（中国クラス、台湾クラス）と増設され、HMとHM広島は、それぞれ各クラス2回ずつ計4回を担当した。わがHMでは渡部が「スポーツ」、金田が「日本の絵画」と、各クラスで1回講義を行った。

2014年度からは非漢字圏（インド、インドネシア、ベトナム、マレーシア、モンゴル）を対象とした研修クラスも開始された。同年度以降は、夏期も冬期もHM（渡部、金田）が、内容を少しずつ変えながら担当し（各クラス1回ずつ）、現在に至っている。因みに、2016年度夏期の題目は「日本の伝統スポーツと礼－武術から武道へ－」（渡部）、「日本の絵画－絵巻物の世界（『鳥獣戯画』甲巻を見る）」（金田）。

（金田　晉）

日本語・日本文化特別研修
「日本の伝統スポーツと礼ー武術から武道へー」

日韓共同理工系学部留学生予備教育

平成10年の「日韓共同宣言」に基づき、平成12年に文科省より「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」が通知され、広島大学では「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」を策定し、これに基づいて平成12年11月より広島大学に受け入れる留学生に対する入学前予備教育が開始された。予備教育には、「日本語科目」と「専門科目（理科科目と英語研修プログラム）」を課し、「理科科目」では数学、物理、化学および生物の科目が開設された。（参考1）

「理科科目」の予備教育は、当初は大学院生を講師にして、演習形式で行われてきた。しかし、平成23年に「広島大学マスターズ」および「広島大学マスターズ広島」に対して「理科科目」（各科目とも週1回90分で10週の講義）への講師派遣の要請があり、以後、広島大学マスターズが「数学」と「化学」を、広島大学マスターズ広島が「物理」と「生物」を担当することとなった。なお、平成23年度～25年度は、数学（水田義弘）、化学（平田敏文）を担当し、平成26年度～28年度には、数学（今岡光範）、化学（谷本能文、平田敏文）を担当した。

理科予備教育の目的は、留学生が入学後、それぞれの専攻の専門科目の講義を受ける際に困らないように、日本の高校レベルの学力と日本語力を身につけることであった。しかし、韓国での理科教育は内容・質ともに日本の高校教育とほぼ同じであり、また留学生は日本の「センター試験」と同レベルの試験を受け選抜されていること、さらにほとんどの留学生が大学院へ進学を視野に入れていることもあり、単なる高校レベルの学力補填では物足りなさを感じているようであった。そこで、広島大学マスターズが担当する予備教育では、日本語の学術用語や表現法の解説だけでなく、入学後に受講することになる専門教育の基本的な内容の先取り、最新の科学トピックの紹介などを加えて講義することにした。留学生がそれぞれの専攻分野や将来の進路に対してモチベーションを高めて入学してもらいたいものである。

（参考1）広島大学国際センター発行「留学生教育」第20号、p.70-73（2016）.

（平田敏文）

東広島市への協力・支援

市民講座・出前講座

広大マスターズの活動の4本柱の一つに「地域との連携・協力」がある。この柱に沿って、東広島市生涯大学システムに参画し、以下の活動を行っている。

東広島市市民講座・東広島市生涯学習まちづくり出前講座

東広島市市民講座は、東広島市教育委員会主催・広島大学マスターズ共催の市民向け講座で、2007年度に「熟年世代の健康と食べ物」（角谷哲司・大田安英・西村清巳・川上英之）と「広島の魚文化」（海野徹也・宗岡洋二郎）の２講座を開講した。以後2008年度5件、2009年度4件、2010年度5件、2011年度4件、2012年度4件、2013年度5件、2014年度5件、2015年度5件、2016年度5件と、「語学」「人文・社会科学」「理学・工学」「スポーツ・健康」「音楽・美術」などの種々多彩な講座を開講した（詳細は、巻末の「資料編」［各種行事・事業リスト］市民講座p. 51を参照）。本年度（2016年度）は、さらに広く市民に本講座を知っていただくために、「２０１６年宇宙の旅」と「くらしをサイエンスする」の２講座をビデオ収録し、2017年２月頃にカモンケーブルテレビで講座の様子を放映してもらう予定である。

東広島市生涯学習まちづくり出前講座は、事前に登録された講座の中から、受講希望があれば、学校・地域センターなど受講者の指定する場所に出向いて、講座を開講するという仕組みである。2007年度には東志和小学校に沖村雄二・安藤忠男が出向き、沖村が「大地を探る」「大地の変化」を授業し、安藤が「土の生い立ちと働き」について簡単な実験を交えながら授業した。毎年10件程度の講座を登録しているが、その中から2008年度2件、2009年度2件、2010年度2件、2011年度2件、2012年度4件、2013年度4件、2014年度4件、2015年度2件、2016年度13件の出前講座が実施された（詳細は、巻末の「資料編」［各種行事・事業リスト］出前講座・出前講義p. 54を参照）。

（谷本能文）

市民講座「プラズマがつくる新表面」（中佐啓治郎）
（2015.1）

市民講座「世界の動きと平和を考える」（岩田賢司）
（2016.2）

市民講座「里山で遊ぼう」（西村清巳）
（2008.10）

出前講義「黒瀬川と仲良くなろう」（宗岡洋二郎）
（2011.9）

市民講座「東広島を楽しくスケッチしよう」作品展（難波平人）
（2013.12）

出前講義「東広島の大地」（沖村雄二）を受講した
八本松中学校の生徒が作った校内新聞
（2015.7）

地域課題研究支援

東広島市の「地域課題研究論文懸賞論文事業」に広大マスターズが関わって早くも８年余りが経つ。東広島市の産学官団体「学園都市づくり交流会議」が主催するこの事業は、平成20年に始まったが、筆者はその企画段階から参画した。当時も同種の事業が市内の大学研究者を対象として行われていたが、広島大学の「地域貢献研究」と比較すると研究助成金が少なく、応募者が少なかった。そこで広大で地域貢献研究事業を企画・実施した筆者に市企画課から相談があったのである。

私は市内の大学に在籍する学生を対象とすること、応募論文は地域社会への貢献度、学生の地域活動への参加意欲、論文としての説得力、研究成果の発展性、学術的成果のレベルの5視点から4段階で評価すること、審査は論文審査の経験豊富な広大マスターズが責任をもって担当することなどを骨子とした企画を提案した。学生が研究成果ばかりでなく、研究を通じて地域住民と深く交流することを期待したからである。研究課題は市民生活から地域振興などに至る多様な分野が対象となるが、専門分野の異なる5人程度の少数の審査員でも公平な審査を十分実施しうることを、広大の地域貢献研究の経験から確信していた。

第1回の懸賞論文の募集は平成20年4月に行われた。応募締め切りはその年の12月25日であったが、市内3大学の全てから7編の論文が寄せられた。毎年多数の卒論や大学院の修了論文を審査してきた者にとっては十分に対応可能だった。初年度は最優秀1編、優秀2編が選定された。賞金も最優秀論文30万円（現在は20万円）だった。審査は､応募論文数の多寡にかかわらず1回10万円の謝金で広大マスターズが引き受けることにした。当時の広大マスターズは財政的自立を模索していたので、10万円の収入は助かった。この資金で出前講座などに必要な液晶プロジェクター 1台を早速購入したものである。

過去8回の応募論文は実に多様である。地域の自然環境、産業、生活、福祉、健康、インフラ、国際交流、町づくりなど、行政の参考になる論文も多い。何よりもうれしいことは、多くの学生が地域社会に入って調査研究を行い、地域の人たちと交わっていることである。地域住民と協働の町づくりを始めたグループもある。確かにこの事業をきっかけにして学生が東広島について考え、地域に馴染んで行く様が見て取れる。多分、これがこの事業の最大の成果であろう。しかし、応募論文数が最近では2~5件と少なくなっており、いつまでこの事業を続けることができるだろうか、と気になっている。本事業の活性化策について諸賢のご助言をいただければ幸いである。

（安藤忠男）

平成 24 年度の表彰式（東広島市役所にて）